

獣害対策の実践講座開講

高校生ら20人 サル用電気柵の設置挑戦

実習で、グラウンドにサル用の電気柵を設置する地元の高校生ら＝丹波篠山市畑宮



2024年7月11日

神戸新聞

丹波篠山

野生動物による農業被害を軽減する技術などを学ぶ「獣害対策実践塾」が、丹波篠山市瀬利のみたけ会館で開かれている。同市などが関わる全5回の講座。同市は、マイナスの課題である「獣害」を資源と捉え、市内外から多様な人材を呼び込み、地域活性化につなげる試みを「獣害対策」として実践・発信している。

6月16日にあった第2回の実践塾には、篠山産業高校の生徒や市内の農家ら約20人が参加。県立大教授の講義では、相生

市の集落など県内の獣害対策の実例について学んだ。続く実習では、実際にグラウンドで、サル用の電気柵設置に挑戦。杭を打ち込み、柵で囲い、電気が流れる線を張った。炎天下の作業で、篠山東雲高校2年の

さん(17)は「暑くて大変だった。(講義で)獣害対策はしつかりやれば被害が減ると分かった」などと話していた。

第3回は7月13日に開催。獣害防護柵の点検実習がある。市森づくり課 ☎79・5522・1117